

## 文部科学省 COC+R事業 とくしま創生人材・企業共創プログラム

### 事業のポイント

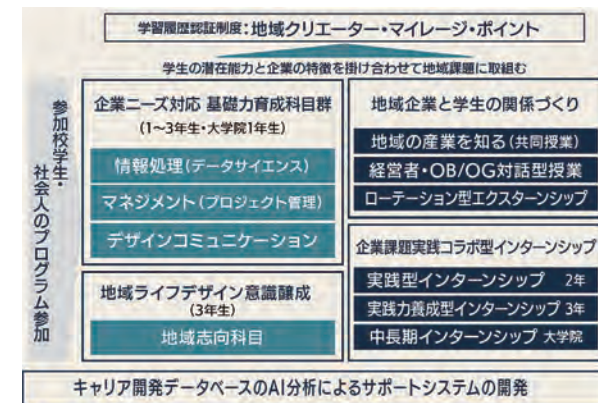
■ 令和2年度に文部科学省 COC+R事業「とくしま創生人材・企業共創プログラム」が採択され、3年目となる令和4年度は新たな教育プログラムとして「就業体験型インターンシップ」を導入し、目的達成に向けて企業との関係の深化とインターンシップの充実化を進めている。

### 事業の概要

#### 1. 事業の目的・今後の展開

我が国の最重要課題である地方の人口減少問題については、これまで国内で克服に向けた様々な施策が取り組まれてきたが、少子高齢化による急激な人口減少とともに、東京圏への一極集中の傾向が継続している。地方への若者の定着を図るためには、地方国立大学は魅力ある学びの場をつくるとともに、地域の中核的産業の振興と、これを担う実践的な専門人材の育成を推進することが重要である。(令和元年12月『第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」』)

本事業の目的は、地元企業と連携した新たな教育プログラム“とくしま創生人材・企業共創プログラム”を設置することで、地域を担う質の高い人材を大学が企業等と協働して育成し、それによって、県内企業等の魅力・経営の向上と県内への人材定着の促進という好循環を創出することにある。



(図1) 事業概要図

徳島県内で将来性・発展性・先進性を備えた企業群と連携し、これらの企業の人材ニーズに対応した基礎力育成を目指す授業科目群と企業等との関係性を構築する課題解決実習を開設し、学生の資質形成と企業の採用力及び経営力の向上を同時に実現する教育プログラムを開発するものである。

### 事業代表者・連絡先

COC+R事業事務局  
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 地域創生・国際交流会館3階  
tel: 088-656-9885 fax: 088-615-4477  
e-mail: coc-plus-r@tokushima-u.ac.jp

#### 2. 事業の取組状況

##### ① 参加校共同授業「徳島の魅力・徳島で働く」

徳島県の課題や将来のビジョン及び徳島県で働く・暮らすことについて、地域の識者から学び、地域づくりの方策を話し合うことで徳島県の魅力と徳島でのキャリアプランへの理解を促す。徳島県知事をはじめ、県内で活躍するリーダーや県内高等教育機関のOB・OGを講師に、徳島の課題・仕事・暮らしの魅力に関する講演、トークを実施した。[総受講者数90名(うち最終レポート提出者52名(徳島大学28名/四国大学・四国大学短期大学部19名/徳島文理大学5名)、他県大学生5名、県内高校生4名も受講)]

##### ② エクスタースHIP(地域企業を知る・読み解く)

将来、徳島県で働くことに興味ある学生に対し、大学入学の段階から出口となる県内企業の特徴、魅力、働き方、社会的責任等を知ることで、これからの大学で必要となる学びを意識させる。履修生は、学内にて県内企業の経営者・若手社員と、グループ対話を繰り返し、社会人としての働き方や業種、業態等への理解を深めた後、最後に実際の職場にて1dayインターンシップを実施した。[参加企業・団体数:28機関、受講生数:56名(徳島大学42名、徳島大学大学院7名、徳島文理大学7名)]

##### ○参加企業・団体の感想

・学生と対話することで、これまで自社の魅力として提示していた情報と実際に学生が魅力を感じる情報に違いがあることがわかり、広報をする上での参考となった。  
・若手社員が学生に自社の魅力や仕事のやりがいを伝える場に参加したことで、社員自身が自分の仕事を見直す機会が得られた。

##### ③ 実践型インターンシップ

本授業では企業や地域の抱える実際の課題の解決に向けて、履修生が現場の方をパートナーとしてチームで約半年間のプロジェクトに挑戦することで、学生と参加企業・団体双方の成長や魅力、経営の向上を図っている。本年度は企業等を受け入れ団体とする従来のプロジェクトに加え、地域おこし協力隊等の地域リーダーを受け入れ担当者とし

て、自治体の抱える地域課題に取り組む「地域課題型」のインターンシップも実施した。[参加企業・団体数:9機関、受講者数:38名(徳島大学38名)]

##### ○参加企業・団体の感想

・プロジェクトとして自社の課題に取り組むことで、社員の意識変化と新人社員育成の質や速度の向上に期待をもたらす成果が得られた。  
・インターンシップ生が実施した調査によって顧客の潜在的なニーズが見えるようになり、新たな企画立案の参考となった。

##### ④ 就業体験型インターンシップ(UIJインターンシップ)

本年度より、就職活動を控えた学生を対象とし、「その仕事に就く能力が自らに備わっているか見極める」ことを目的に、県内企業の提供する短期間のインターンシップ(就業体験)と大学の用意する事前事後学習を組み合わせたプログラムを導入した。本プログラムはCOC+R参加校の学生の他、県内への還流促進に向けてUIJターン志向のある県外大学生も受け入れるよう調整し、R4年度は徳島県の事業として旅費を支援する「UIJインターンシップ」としても実施した。[参加企業・団体数:7機関、受講者数17名(徳島大学10名、県外大学生7名)]

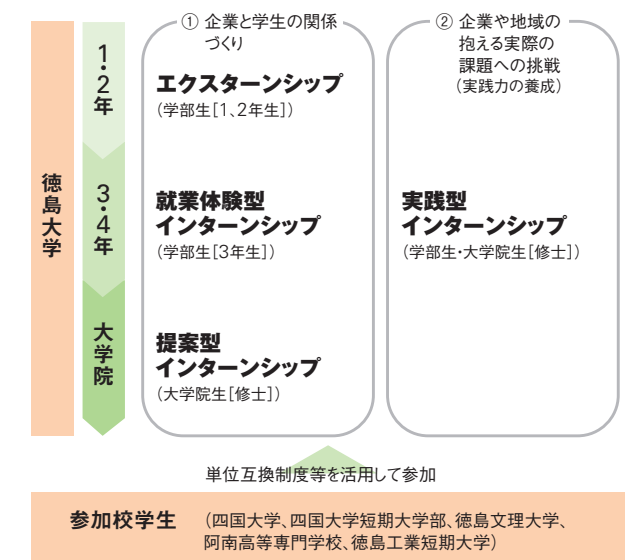
##### 3. 参加校との連携

県内の参加校(四国大学、四国大学短期大学部、徳島文理大学、徳島工業短期大学及び阿南工業高等専門学校)と連携し、前述の参加校共同授業や実践型インターンシップ等の「地域学習・実習科目」、情報処理、マネジメント、デザイン・コミュニケーションの3分野からなる「基礎力育成科目」、簿記、会計学などの「資格取得サポート科目」で構成する教育プログラム(科目数:61科目)を設置し、単位互換を行える仕組みを整えている。これにより、受講を希望する参加校の学生誰もが他校のプログラム科目を受



(写真) 実践型インターンシップの様子

講し、自らの単位として認定することができるようになっている。



(図2) 事業におけるインターンシップ科目の構成

#### 4. 事業実施による成果と今後の展開

目的の達成に向けて、企業との関係の深化とインターンシップの充実化を進めている。これに向けて、企業との共創教育を通して「企業と学生の関係構築」と「実践力の養成」を図り、学年に応じた段階的な学びを得ることが可能なカリキュラムを整える。具体的には、①実践型インターンシップを複数年度に亘って受講可能に整備、②専門科目として前述の「就業体験型インターンシップ」の導入(R4年度)、③大学院生を対象とし、企業や地域に向けて自身の課題意識を提案しインターンシップの企画から完遂まで通して取り組む「提案型インターンシップ」の導入(予定・R5年度)等の取り組みを進め、企業からのフィードバックを受けながら内容のブラッシュアップを図っていく。